

拝啓

梅の花が咲き、こぶしのつぼみがふくらみ、陽射しが明るくなり、春がそこまでやってきていることを感ずるこの頃です。お元気でお過ごしのことと思います。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。第 59 号をお送り致します。

しばらく神谷美恵子先生の著作集からの引用を続けますが、私は岡山市の出身ですから、神谷美恵子先生が岡山で生れられた（父上の前田多門氏が岡山県庁勤務時代）こと、そして私の家からたぶん歩いて 10 分ぐらいのところに住んでおられたようで大変親近感を感じます。

また神谷先生が医師として勤務された長島愛生園は、岡山市の東、牛窓の先の島です。園長の光田健輔先生は、私の子供の頃から有名な方で、今回岡山市名誉市民であることも知りました。

10 年ぐらい前、私の弟の嫁の山口敬子さんに車で長島愛生園を見学に連れて行ってもらったことがあります。資料館があり、そこに石館守三先生が開発されたプロミンの薬ビンが置かれておりました。プロミンのおかげで、日本からいらいが全滅されました。

私は、昔うつ病でだらだらと長患いをしていた頃、今回紹介した神谷先生の日記の 1964 年 9 月 23 日の「十年近く前、がんを宣告されたとき果すべきことを果さないで逝くことに対して流した涙をもう流したくない」とある箇所を読んで感動し、それ以来、毎日を全力で生きようという気持ちになり、病気から立ち直ったことがありました。20 年ぐらい前のことでしょうか。

また、神谷先生は、昭和 13 年 22 歳の時、アメリカのフィラデルフィアのペンデルヒル寮で、浦口真佐さんという友人に出会い、「人間、ぜひやるべきだ、と思うことはやるべきよ」と言われたことが、らいへの夢を復活させてきっかけになり、生涯の親友となったと述べられています。私にも、学生時代阿部達雄君という親友がいました。彼から、受けたさりげないアドバイス、小西先生への橋渡し、何という恩恵を受けたことでしょうか。今彼は、天にいます。

2 月 9 日、立花隆編「南原繁の言葉」（東大出版会、2200 円）が出版されました。昨年 8 月 15 日の安田講堂での講演会の講演と、南原先生の文章を収めた本です。立花さんの編集により、南原先生が実にいきいきとよみがえって、直接南原先生の講演を聞いているような大変な迫力のある本です。ご興味があるかたは、書店にご注文の上お読みください。

2 月 24 日土曜日の午後、神田東京堂書店の会場で、立花隆さんと辻井喬さんの対談の会（「南原繁の言葉」出版記念）がありました。これも深い感銘を受けました。そのとき、立花さんが「9 条がつくる脱アメリカ型国家 財界

リーダーの提言 」（品川正治著、青灯社、1500円）という本をすすめられ、目下読んでいます。著者の品川正治さんは、経済同友会の終身幹事の方で、一流の財界人です。憲法9条を護るべきだという実に説得力のある本です。これらもご一読をお勧めします。

まだ寒い日も入り混じっています。御身体御慈愛くださいますよう祈り申し上げます。

敬具

平成19年3月1日

山口周三

エンカウターの読者各位